

神在月

2025. 10. 2

10月になった。10月が好きである。きっと秋が好きなのである。どんどん日が短くなり、物悲しくなってくる時期である。暑さの名残りはあるとはいえ、気候的にも過ごしやすい。

今でも覚えている10月の風景がある。もう何年前のことかは忘れてしまった。新潟に行ったことがある。弥彦山に登った。登ったというと、いかにも歩いて行ったように聞こえるが、ロープウェイという便利なものがあつた。

山頂に着いた。幸いにもお天気がよかった。風もなかった。そこからの眺めが絶景だった。日本海と越後平野を一望することができた。大パノラマである。景色に感動することなど滅多にないのだが、このときばかりは違った。もう一度、行ってみたい。

もう一つは、お馴染みの吾妻山、吾妻小富士である。いつも目にしている山だが、そんなに何回も登っているわけではない。たいてい、風が強い。ところが、あの日はお天気はよく、奇跡的に無風だった。一切経山の噴煙がまっすぐと空に向かっていった。眼下の福島盆地、いや伊達のほうまで見渡せるのだから、信達平野といったほうがよいだろう。それはそれは見事だった。信夫山もきれいに見える。その手前の一杯森もわかる。そうすると、我が家を探したくなる。おおよその場所は特定できる。

これらは、10月特有の風景であろう。様々な条件が重ならないと、巡り会うことができない貴重な一枚の絵画である。未だに心に残っているのだから、よっぽどであつたのだろう。風景というのは、お天気だけでなく、そのときの心持ちにも左右される。

10月を神無月ともいう。全国から神様がいなくなる。それはなぜか。あるところに集まって話し合いをするからである。それはどこか。出雲である。だから、出雲では、10月を神在月という。10月の出雲に行ってみよう。全国から神様が集まっている出雲は、どんな空気に包まれているのだろう。

以前、8月に行ったことがあつた。出雲に入ると、急に空気が変わったことを覚えている。何かしらのエリアに入った感覚である。このような感覚は、伊勢神宮や明治神宮でも感じたことがある。だが、出雲のそれはやや違った。エリアが広いのである。その地域全体がそうなのである。

神在月の出雲は、どんな感じなのだろうか。一度は訪れてみたい。今年の神無月は、どんな景色と出会うことができるだろうか。楽しみである。10月は、いい季節である。